

# 多次元空間における埋め込み 1 次元曲線の同時信頼領域

千葉大・融合理工学府 山添 滉弥

千葉大・理学研究院 内藤 貫太

**はじめに:** 道路交通網上の交通事故や、脳神経細胞網における樹状突起スピンの分布といった、枝分かれした 1 次元曲線上で観測されるデータをネットワークデータと呼ぶ。ネットワークデータに対して、与えられたネットワーク上における密度推定の手法についてはすでに研究されている (Liu and Ruppert, 2021; McSwiggan et al., 2017)。しかしながら、ネットワークを構成する 1 次元曲線の同時信頼領域をデータから構築する方法については、いまだ研究がないようである。本研究ではこの問題を多次元空間に埋め込まれた 1 次元曲線の同時信頼領域を構築する問題として捉え、ノンパラメトリック回帰のアプローチから取り組む。

**問題:**  $I = [a, b] \subset \mathbb{R}$  を閉区間とし、 $\varphi_i : I \rightarrow \mathbb{R}$  ( $i = 1, \dots, d$ ) を滑らかな関数とする。このとき、 $\mathbb{R}^d$  に埋め込まれた 1 次元曲線を

$$\varphi(t) = \begin{bmatrix} \varphi_1(t) \\ \vdots \\ \varphi_d(t) \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^d$$

で表す。確率ベクトル  $\mathbf{Y} \in \mathbb{R}^d$  と共変量  $T \in I$  の組  $(T, \mathbf{Y})$  からの  $n$  個の観測値  $(T_1, \mathbf{Y}_1), \dots, (T_n, \mathbf{Y}_n)$  に基づき 1 次元曲線  $\varphi$  の同時信頼領域を構築したい。つまり、 $M_\varphi = \{\varphi(t) \in \mathbb{R}^d \mid t \in I \subset \mathbb{R}\}$  としたとき、十分小さい  $\alpha > 0$  に対して、

$$\mathbb{P}(\mathcal{D} \supset M_\varphi) \geq 1 - \alpha$$

となるような有界閉領域  $\mathcal{D} \subset \mathbb{R}^d$  の構築を目指す。

**設定:** 1 次元曲線の推定の関連研究である Hastie and Stuetzle (1989) を参照しつつ、モデルの仮定を行う。 $\mathbb{R}^d$  に埋め込まれた 1 次元曲線  $\varphi$  に対して、任意の点  $t$  における勾配ベクトル  $\varphi'(t)$  を  $\varphi'(t) = [\varphi'_1(t) \cdots \varphi'_d(t)]^T$  で表す。また、 $\mathbf{n}_1(t), \dots, \mathbf{n}_{d-1}(t)$  を  $\{\varphi'(t)/\|\varphi'(t)\|, \mathbf{n}_1(t), \dots, \mathbf{n}_{d-1}(t)\}$  が  $\mathbb{R}^d$  の正規直交基底となるようにとる。さらに、 $T$  を  $I$  上の密度  $f_T$  に従う確率変数とし、 $\mathbf{V} = [V_1 \cdots V_{d-1}]^T$  を原点中心半径  $r$  の  $(d-1)$  次元球  $B_r^{d-1}$  上の密度  $f_V$  に従う確率ベクトルとする。

$(T_1, \mathbf{V}_1), \dots, (T_n, \mathbf{V}_n) \stackrel{\text{i.i.d.}}{\sim} f_T \times f_V$  と  $E[\mathbf{V}_1] = \mathbf{0}$  を仮定する。確率ベクトル  $\mathbf{Y}$  の  $d$  次元標本  $\mathbf{Y}_1, \dots, \mathbf{Y}_n$  として、

$$\mathbf{Y}_i = \varphi(T_i) + N(T_i)\mathbf{V}_i$$

を考える。ただし、 $\mathbf{Y}_i = [Y_{i1} \cdots Y_{id}]^T$ ,  $\mathbf{V}_i = [V_{i1} \cdots V_{i,d-1}]^T$ ,  $N(t) = [\mathbf{n}_1(t) \cdots \mathbf{n}_{d-1}(t)]$  である。

**同時信頼領域の構築:** 共変量  $\mathbf{T} = [T_1 \cdots T_n]^T$  と  $\mathbf{Y}$  の第  $j$ -成分のデータ  $\tilde{\mathbf{Y}}_j = [Y_{1j} \cdots Y_{nj}]^T$  との組  $(\mathbf{T}, \tilde{\mathbf{Y}}_j)$  ( $j = 1, \dots, d$ ) に基づき、 $t$  における  $\varphi_j(t)$  の局所線形推定量  $\hat{\varphi}_j(t)$  ( $j = 1, \dots, d$ ) が得られる。これらを並べることにより  $\varphi(t)$  の推定量  $\hat{\varphi}(t)$  が構築される。さらに  $\hat{\varphi}(t)$  を用いてその勾配ベクトルを求める：

$$\hat{\varphi}(t) = \begin{bmatrix} \hat{\varphi}_1(t) \\ \vdots \\ \hat{\varphi}_d(t) \end{bmatrix}, \quad \hat{\varphi}'(t) = \frac{d}{dt} \hat{\varphi}(t).$$

局所線形推定量については Wand and Jones (1995); Fan and Gijbels (1996)などを参照されたい。 $\hat{\mathbf{n}}_1(t), \dots, \hat{\mathbf{n}}_{d-1}(t)$ を $\{\hat{\varphi}'(t)/\|\hat{\varphi}'(t)\|, \hat{\mathbf{n}}_1(t), \dots, \hat{\mathbf{n}}_{d-1}(t)\}$ が $\mathbb{R}^d$ の正規直交基底となるようにとり、

$$\begin{aligned}\hat{\mathcal{D}}_a(r) &= \left\{ \hat{\varphi}(a) - R \frac{\hat{\varphi}'(a+)}{\|\hat{\varphi}'(a+)\|} + \hat{N}(a)\mathbf{v} \mid 0 \leq R \leq r, \mathbf{v} \in B_{\sqrt{r^2-R^2}}^{d-1} \right\}, \\ \hat{\mathcal{D}}_J(r) &= \left\{ \hat{\varphi}(t) + \hat{N}(t)\mathbf{v} \mid t \in J, \mathbf{v} \in B_r^{d-1} \right\}, \\ \hat{\mathcal{D}}_b(r) &= \left\{ \hat{\varphi}(b) + R \frac{\hat{\varphi}'(b-)}{\|\hat{\varphi}'(b-)\|} + \hat{N}(b)\mathbf{v} \mid 0 \leq R \leq r, \mathbf{v} \in B_{\sqrt{r^2-R^2}}^{d-1} \right\}, \\ \hat{N}(t) &= [\hat{\mathbf{n}}_1(t) \quad \dots \quad \hat{\mathbf{n}}_{d-1}(t)]\end{aligned}$$

とする。3つの排反な領域を用いて同時信頼領域 $\hat{\mathcal{D}}(r) \subset \mathbb{R}^d$ を

$$\hat{\mathcal{D}}(r) = \hat{\mathcal{D}}_a(r) \cup \hat{\mathcal{D}}_J(r) \cup \hat{\mathcal{D}}_b(r)$$

として定義する(図1参照)。本講演では $\hat{\varphi}(t)$ と $\hat{\mathcal{D}}(r)$ の理論的性質および、信頼係数 $\alpha$ から $\hat{\mathcal{D}}(r)$ の $r$ を決定する方法について解説を与える。また、共変量 $\mathbf{T}$ がデータとして得られていない場合において、 $\mathbf{Y}_1, \dots, \mathbf{Y}_n$ から $T_1, \dots, T_n$ を作成する方法についても考察する。

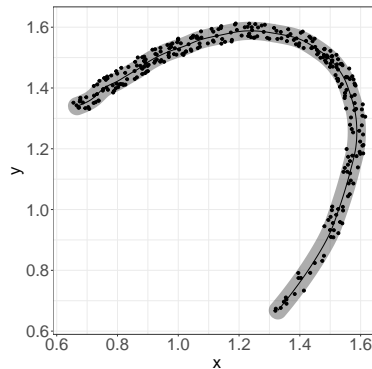


図1 推定曲線 $\hat{\varphi}(t)$ から作られた同時信頼領域 $\hat{\mathcal{D}}(r)$ の例

**適用例:** シミュレーション実験の結果および実データへの適用例については、シンポジウムにて報告する。

## 参考文献

- Fan, J. and Gijbels, I. (1996). *Local Polynomial Modelling and Its Applications: Monographs on Statistics and Applied Probability 66*. Taylor & Francis.
- Hastie, T. and Stuetzle, W. (1989). Principal curves. *Journal of the American Statistical Association*, 84, 502–516.
- Liu, Y. and Ruppert, D. (2021). Density estimation on a network. *Computational Statistics & Data Analysis*, 156, 107128.
- McSwiggan, G., Baddeley, A., and Nair, G. (2017). Kernel density estimation on a linear network. *Scandinavian Journal of Statistics*, 44, 324–345.
- Wand, M. P. and Jones, M. C. (1995). *Kernel Smoothing*. Chapman & Hall.